

第 1 期中期目標期間における業務実績に関する評価意見【全体意見】

(全般的事項、特筆すべき成果、今後に対する意見等)

評価報告書の全体評価：下線、項目別評価：波線

【花泉委員長】

(全般的事項)

・報告書【概要版】にあるように、A、B 評価が 93%であり、中期計画を十分に実施したと認められる。

(特筆すべき成果)

・報告書【概要版】の 5 件に加え、第 1 期中期目標期間の外部資金の年度平均額が法人化前の 2.2 倍に達したことも、特筆すべき成果に加えて良いのではないかと？

(今後に対する意見)

・工科大であるという性格上、外部資金獲得は重要である。第 1 期中期目標期間中の外部資金が法人化前に比べて大きく増加しているものの、科研費採択件数と外部資金の金額が H28 をピークに年々減少傾向にあるため、分析と的確な対策が望まれる。

【梶委員】

全体として中期目標達成に向けて推進していると評価できる。特に以下の点は大いに評価できる。

2、学生募集活動の強化としてオープンキャンパスや説明会を工夫して、積極的に展開した。

14.15.16 キャリア支援・就職支援の推進により、高い就職率を維持している。

18、雇用のミスマッチを防ぐため、インターンシップを拡大している。

61.63.72 グループウェアの利用を促進している。

今後への意見（前橋商工会議所の意見として既に提出していると思います。）

前橋市の市立大学として、将来、「地域活性化の核となる大学」・「卒業生が地元企業に就職する大学」となるべく、地元が必要としている機械工学系、電気・電子系、情報工学系などの学科設立を考えても良いと思う。

【大学回答】

第 1 期中期目標期間終了時の検討にて、前橋市より組織再編の指示があり、現在学科再編の検討を行っているが、今回の再編は、現在の教員及び教員の専門分野を基にした再編であることから、新しい分野の学科を設立することは難しい状況である。

新学科の要望については他からもあったが、前橋市の産業構造が今後変わる可能性があることや、卒業生を輩出してもどれくらいの企業に採用してもらえるかの見通しが無いことから、産業界からの要望については新学科の設置ではなく、カリキュラムの中で柔軟に対応をしていきたいと考えている。

【後藤委員】

100項目の中期計画に対して、B評価以上の項目が全体の90%以上を超えており、評価できる。

特筆すべき成果として、キャリア支援教育を充実させ、就職率も高水準であることは評価できる。今後は、キャリア教育支援プログラムの充実のために、外部アセスメントテスト（PROG）の結果を活用してプログラムの成果の可視化に取り組み、改善していくことを期待する。

また、学生の基礎的能力を強化することを目的とした中期計画に対し、全学科共通のカリキュラムとして基礎教育センターの体制強化を図ったことは、学修の質保証の観点からも重要であり、評価できる。

一方、大学院の教育に関わる3つの中期計画に対して、全て計画通りに実施できなかったことは今後の大きな課題である。大学院進学者も増加していることから、早期に課題を解決できることを期待する。

【富山委員】

(1) 6年間の年度計画に対する自己評価がすべて「B」となっているにもかかわらず、6年間全体に対する自己評価が「A」や「C」になっている箇所が見られる。これらは、説得力と整合性に欠けるといわざるを得ない。この問題を解決すべきである。具体的には、2通りの解決方法が考えられよう。1つは、年度計画自己評価と整合的になるように、6年間全体に対する自己評価を修正するという方法。もう1つは、6年間全体に対する自己評価は現行のままとし、平成30年度自己評価を修正するという方法である。

説得力と整合性に欠けると感じた箇所については、様式②の項目別評価に対する「評価意見等」に記載したので、参考にしていただきたい。

【大学回答】

第1期中期計画期間の実績及び平成30年度業務実績については、提出済みのため修正は行わないが、今後の実績報告についてはご指摘の意見を踏まえて整合性チェックを行っていきたい。

(2) 特筆すべき成果や将来への期待として、No.37とNo.52の自己評価を「B」から「A」へと変更してもいいのではないかと考える。

詳しくは、様式②の項目別評価に対する「評価意見等」に記載したので、参考にしていただきたい。

【星野委員】

全体的には、中期計画を十分に実施したものと評価できる。